



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

UACJグループの自動車部品事業

執行役員 自動車部品事業部 本部長

佐藤 文彦

2023年6月7日

株式会社UACJ



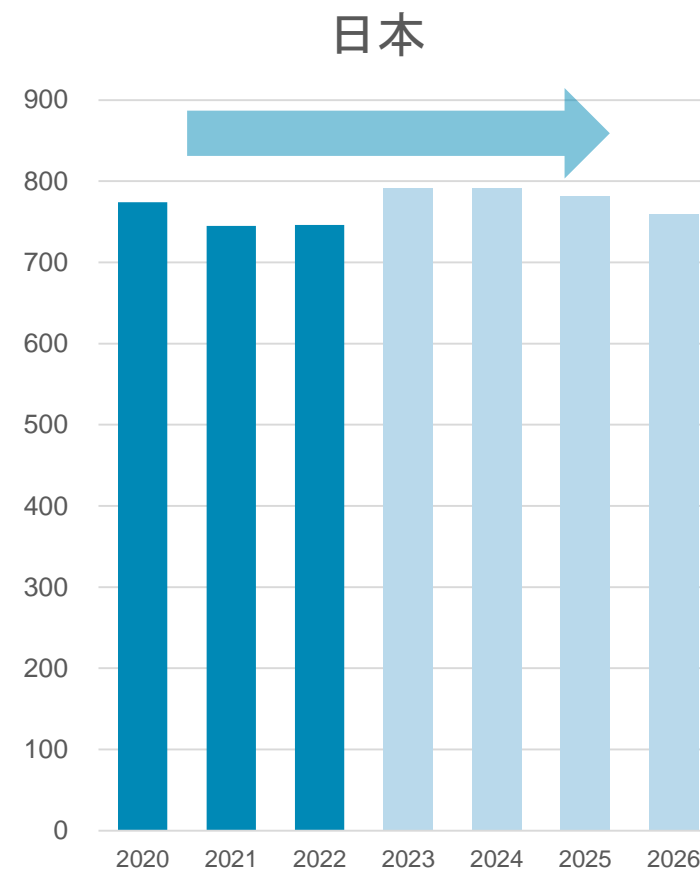
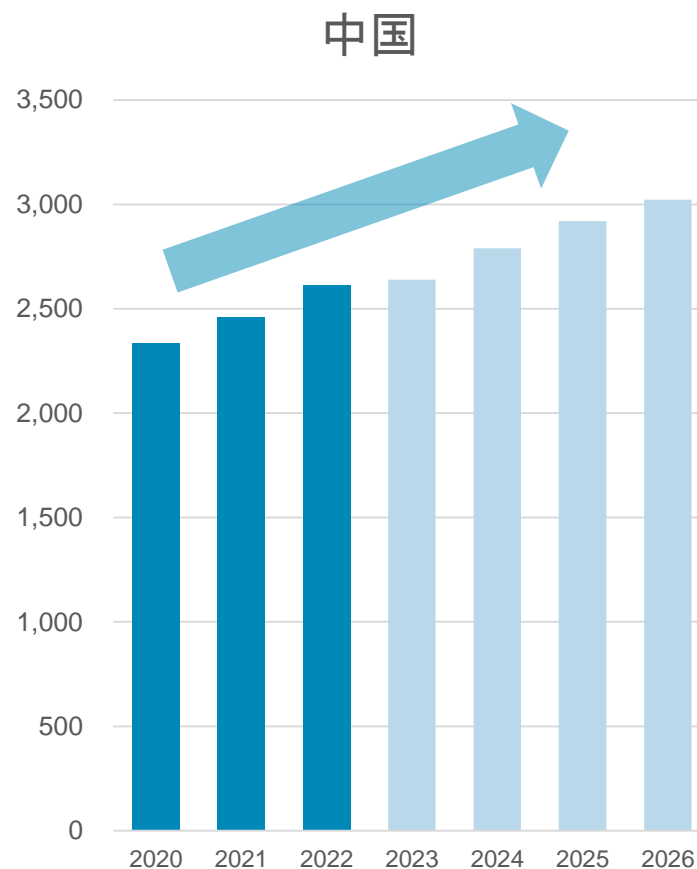
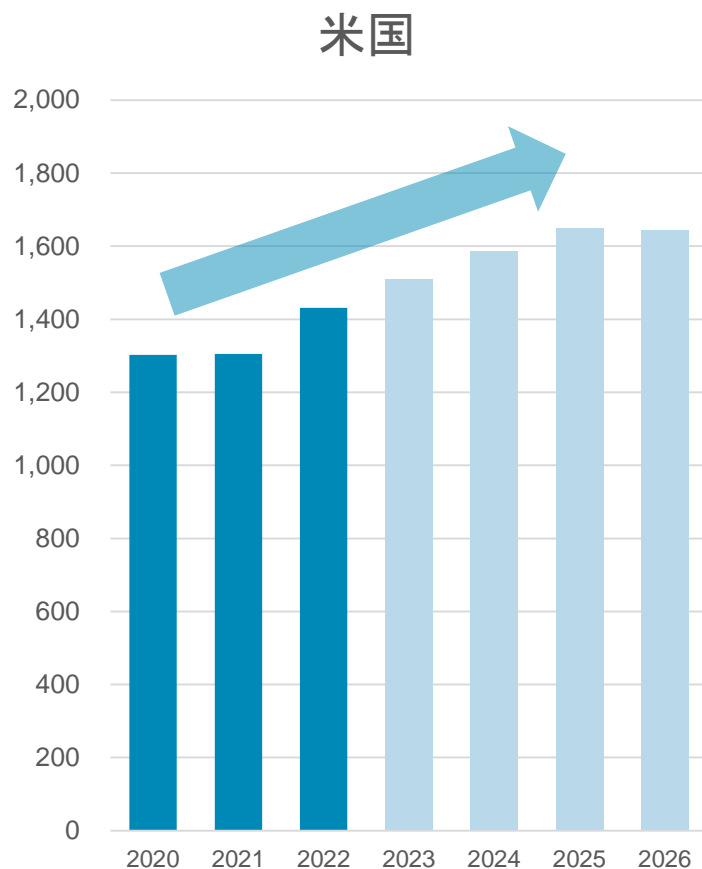
市場の状況



自動車の生産・需要は回復へ

世界的なサプライチェーンの混乱を脱し、市場は中長期的に回復の見通し

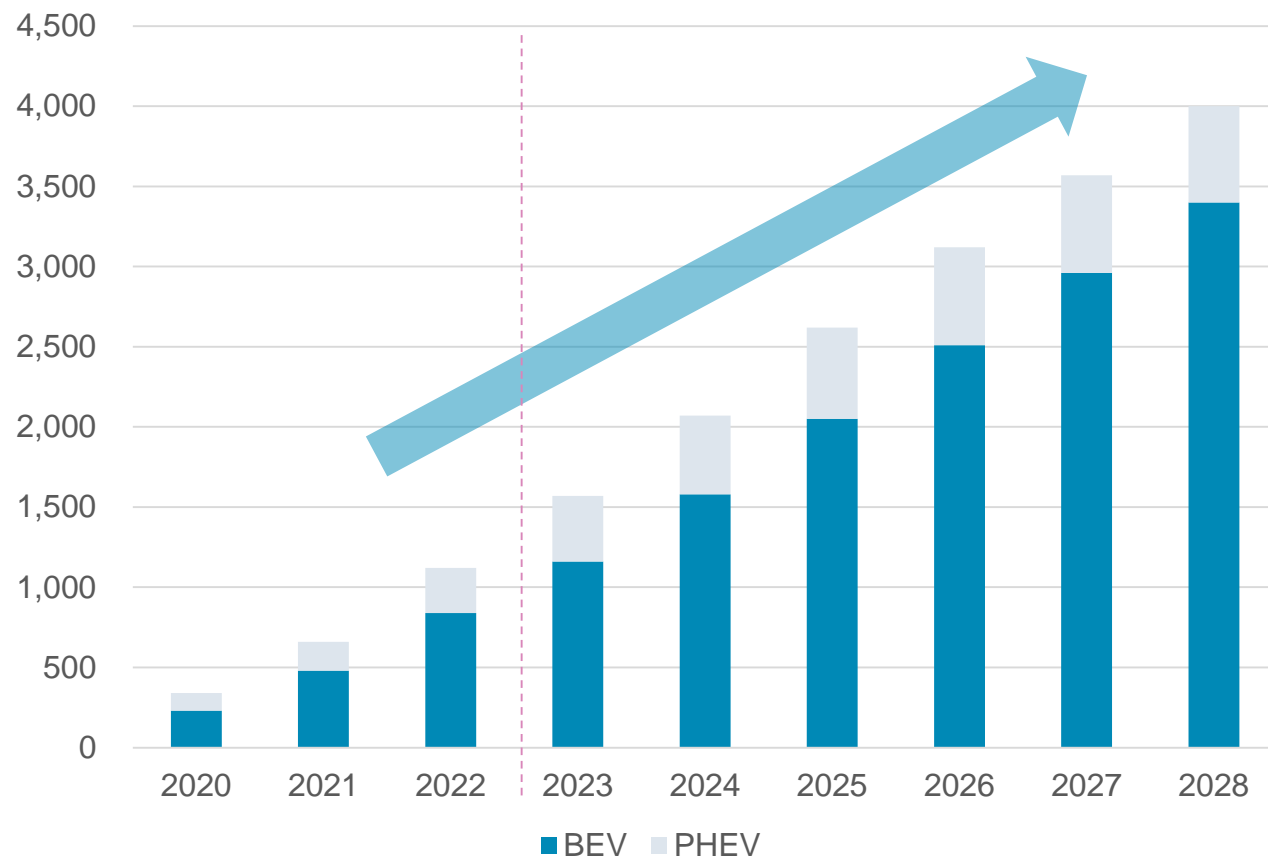
国別 生産台数予測推移(万台)



環境負荷の低減をねらい、電気自動車の需要が増加

世界各国が2050年カーボンニュートラルをめざし、脱炭素の要請が高まるなか、電気自動車の需要が急拡大する

BEV*/PHEV**の生産予測推移(万台)

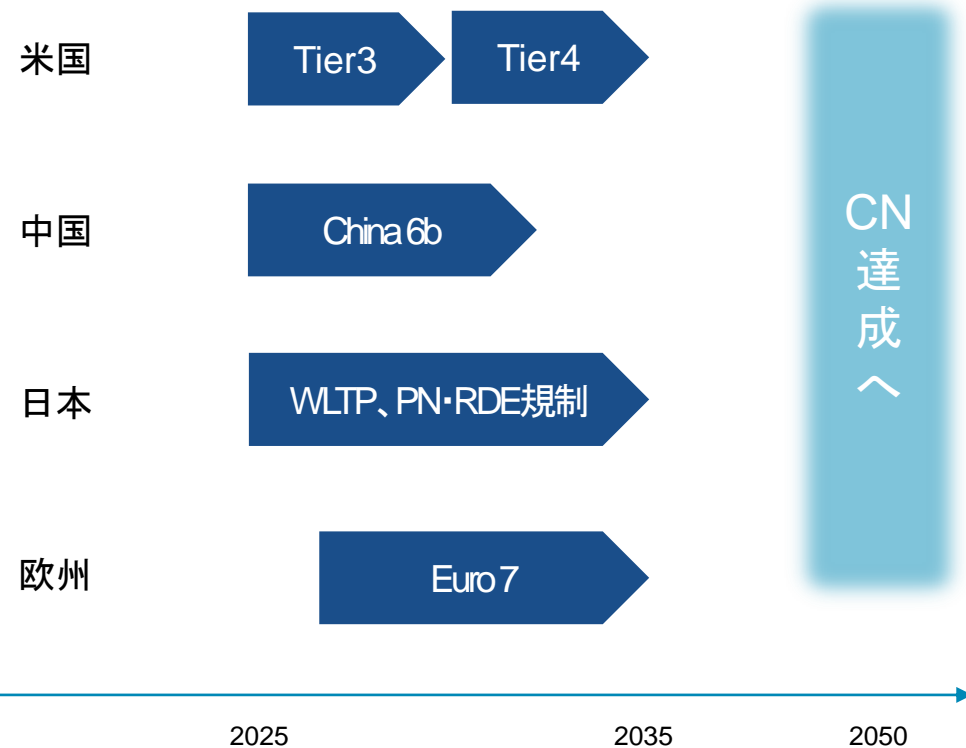


出典：UACJ調べ

*BEV Battery Electric Vehicle 電動自動車

**PHEV Plug in Hybrid Electric Vehicle プラグインハイブリッド自動車

各国の燃費規制スケジュール



アルミニウムが自動車部品に選ばれる理由

CO₂削減、低環境負荷を実現する車の電動化にアルミニウムが有効

アルミニウムが
貢献できること

- 車体の軽量化
- 環境負荷の低減

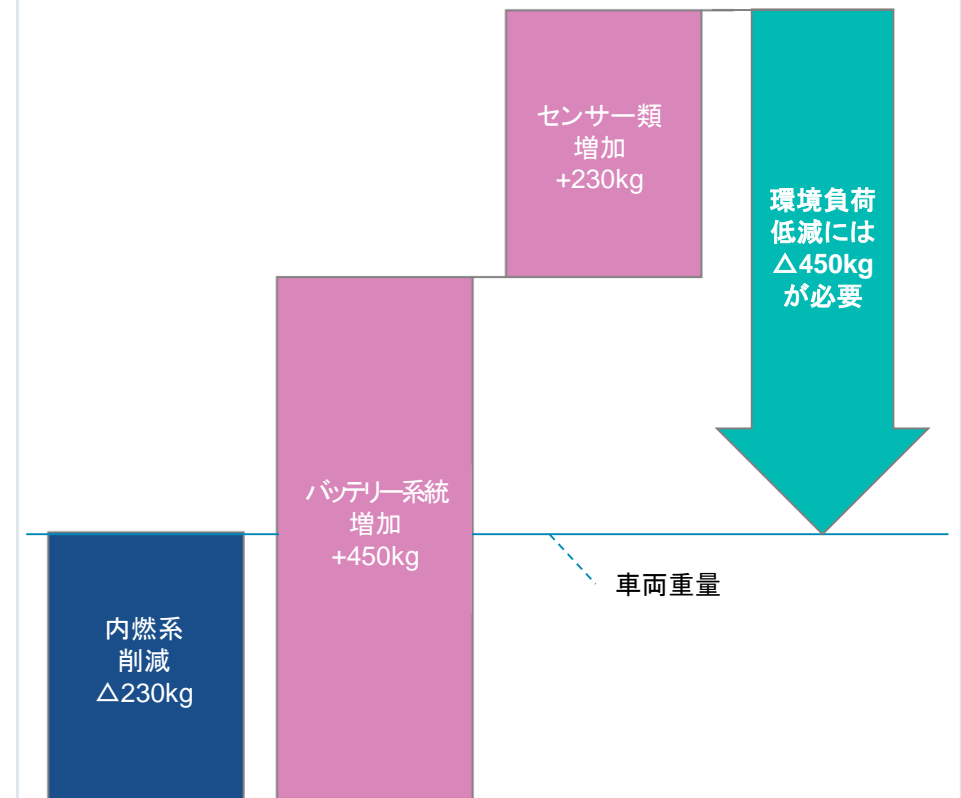
アルミニウムが
有利なこと

- 軽量で、衝撃吸収特性がある
(バンパー等)
- 比強度(単位重量当たりの強度)が大きく、「軽く」て「強い」素材
- わずかなエネルギーで同じ製品へ
何度でもリサイクルできる

アルミニウムを
活用する効果

- 車体の軽量化で、燃費向上・航続距離延伸
- 水平リサイクルの促進による環境負荷の低減

車を電動化することによる車両重量の変化



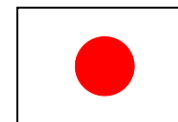
自動車部品事業の領域



自動車関連で当社グループが手掛ける事業範囲



自動車部品事業(押出/鋳鍛/鋳造)
バンパー・クラッシュボックス等を製造



サンルーフガイド



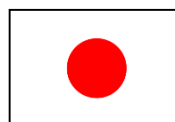
バンパー



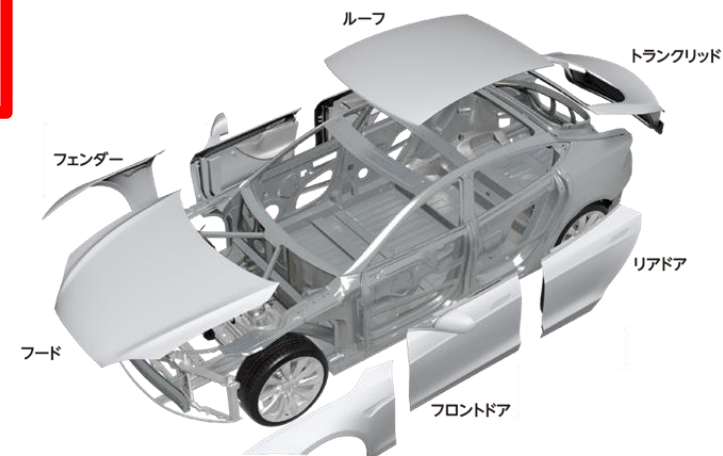
クラッシュボックス



バッテリーハウジング



板事業
ボデーパネル等を製造



UACJが選ばれる理由



UACJの自動車部品事業の強み



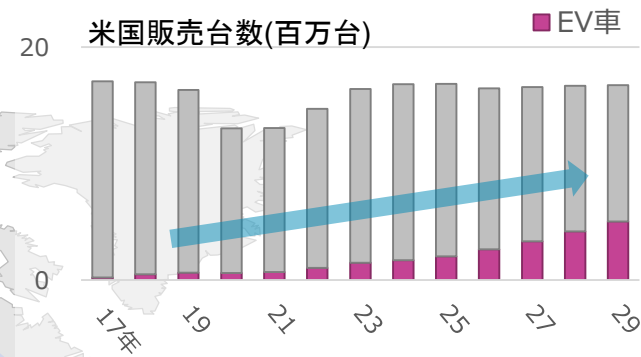
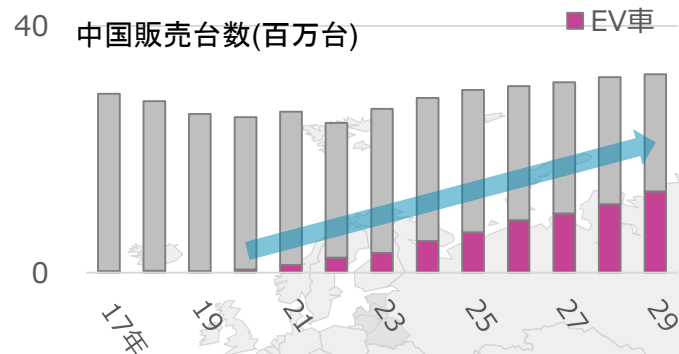
軽量化ニーズの高い地域・市場にアクセスできる開発・製造体制

素材開発から部品加工まで、ワンストップで対応できる体制

日系OEMを中心に、開発時の相談・試作のきめ細やかな対応で顧客の開発スピードアップに貢献

自動車部品事業本部 グローバルネットワーク

軽量化ニーズの高い地域・市場にアクセスできる開発・製造体制



DUB (2019~)

Dicatal UACJ BOLV Automotive Components CO., LTD
アルミホイールメーカー、押出会社との合併会社
2021年から自動車構造部品の量産を開始

中国

日本

米国



MTC (2020~)

モビリティ・テクノロジー・センター
自動車部品事業のグローバル開発拠点として新設
各製造拠点と連携し、迅速な提案型開発を実現



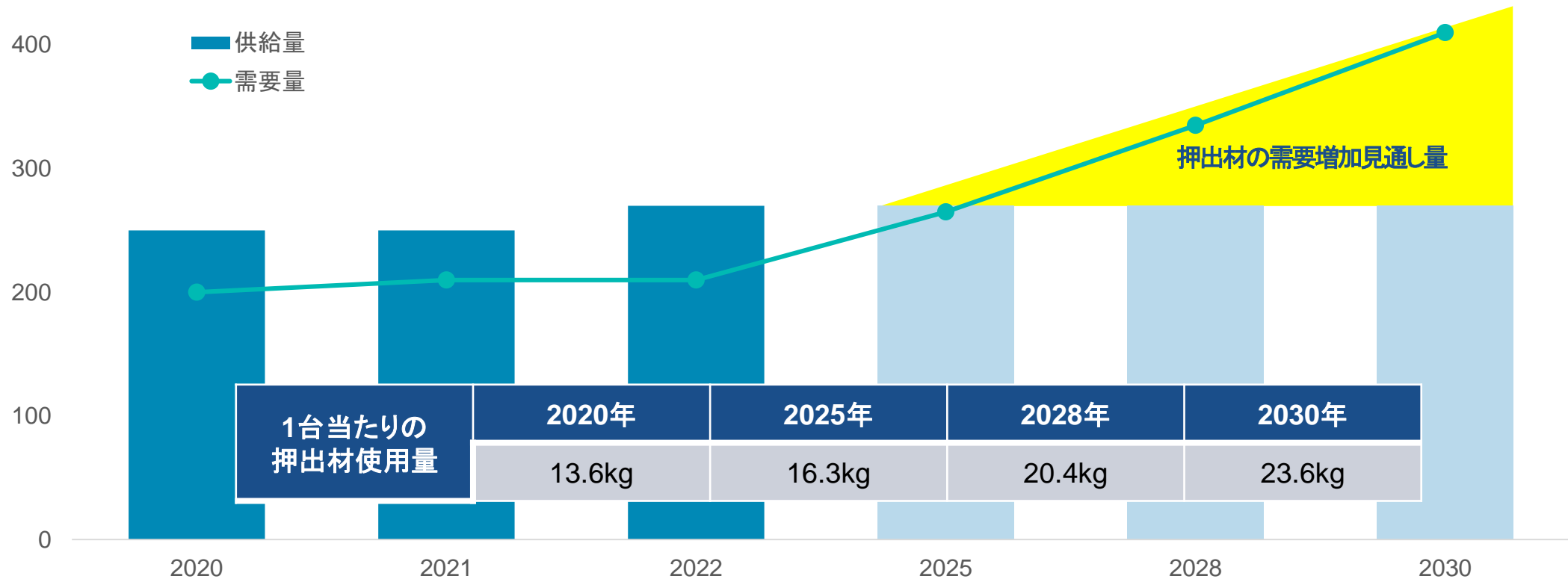
UWH (2016~)

UACJ Automotive Whitehall Ind., Inc.
1974年創業、2016年にUACJグループ参加
押出から組み立てまでの一貫体制で部品等を製造

アルミニウム押出材の需要は急拡大の見通し

自動車の軽量化ニーズに伴って押出材の採用量が増加し、北米は供給不足となることを見込まれる
すでにUWHでは複数の押出プレス機を追加で導入しており、需要の拡大を的確に捕捉することができる

アメリカのアルミニウム押出材の需要と供給見通し(キロt)



素材開発から部品加工までワンストップ

UWHの独自プロセスで、お客様の多岐にわたるニーズを実現
設備・製造条件・ノウハウ等、これまで培ってきた「技」と「術」を結集して製造を可能にした

新興EVメーカー創設時からの
パートナーシップ

押出素材から組立加工までの
迅速な対応

お客様との
相互理解・信頼感

一貫製造

強度
(TYE)

品質管理

腐食性
(IGC)

型材の曲げ性
(VDA)

設備の充実

熟練の技術者

同等性能別設備では品質
達成、安定供給困難

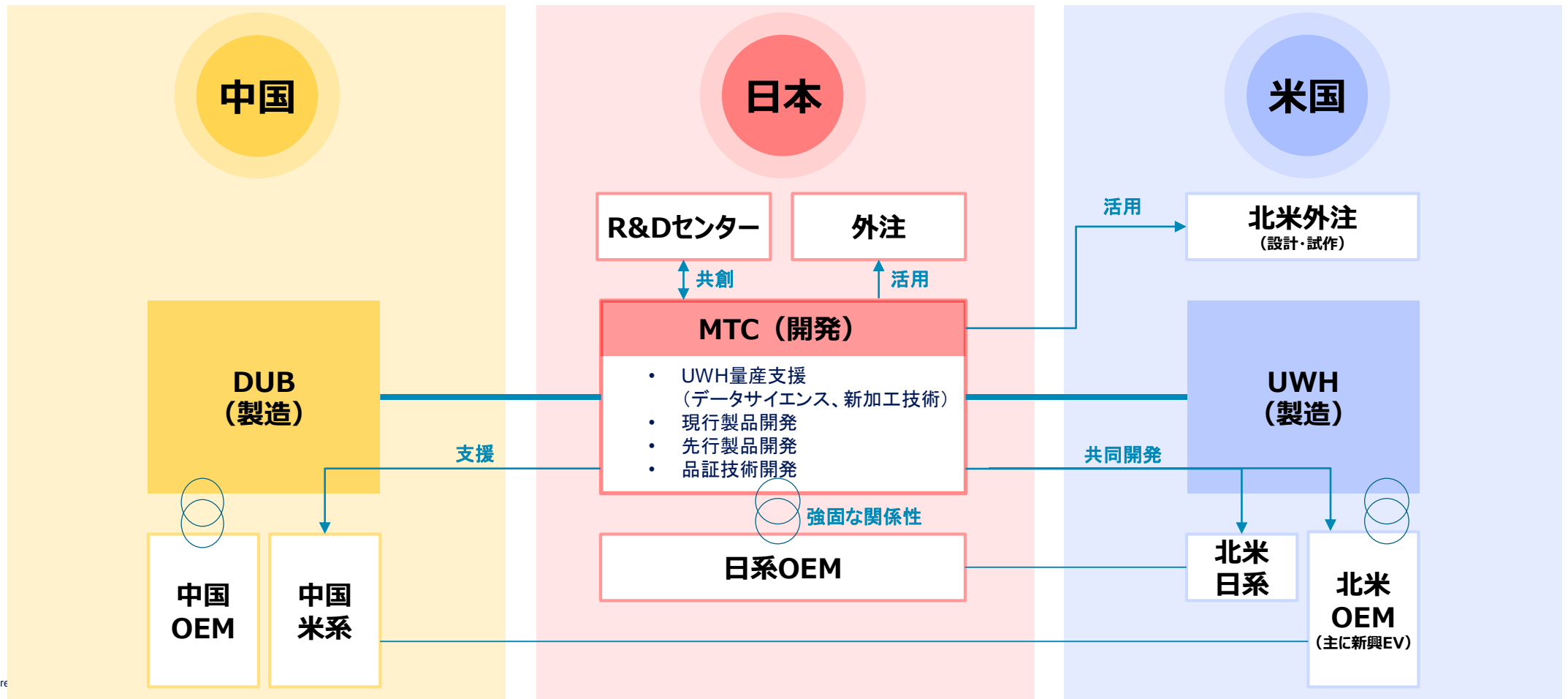
温度管理、表層組織コントロール、
ハードを使いこなすソフト



UACJグループの開発・製造体制

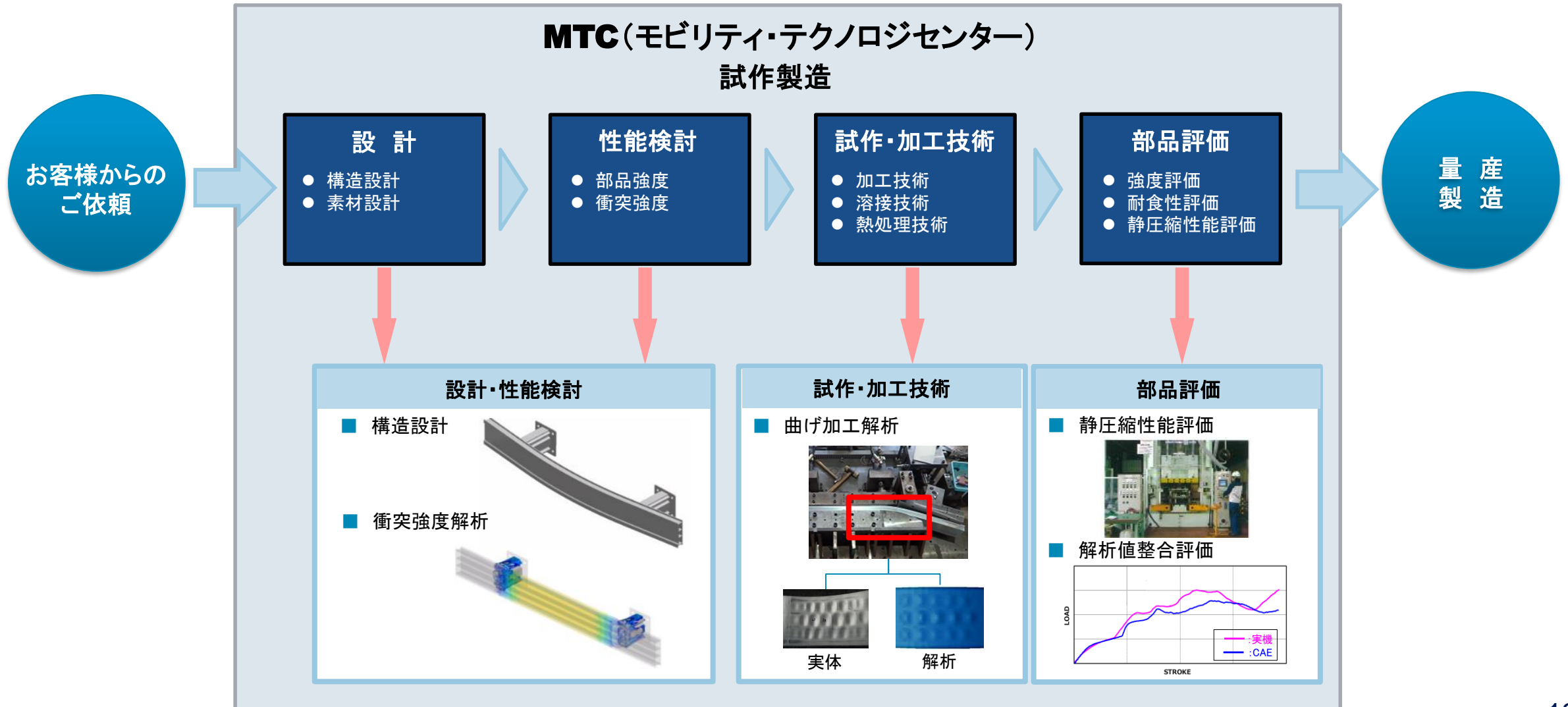
日本、アメリカ、中国の3極体制を構築し、需要の大きなエリアに生産拠点を設ける
CASEを見据えた技術革新や電動化等、次世代技術に対応する開発体制を構築

UACJグループのグローバルな開発・製造体制



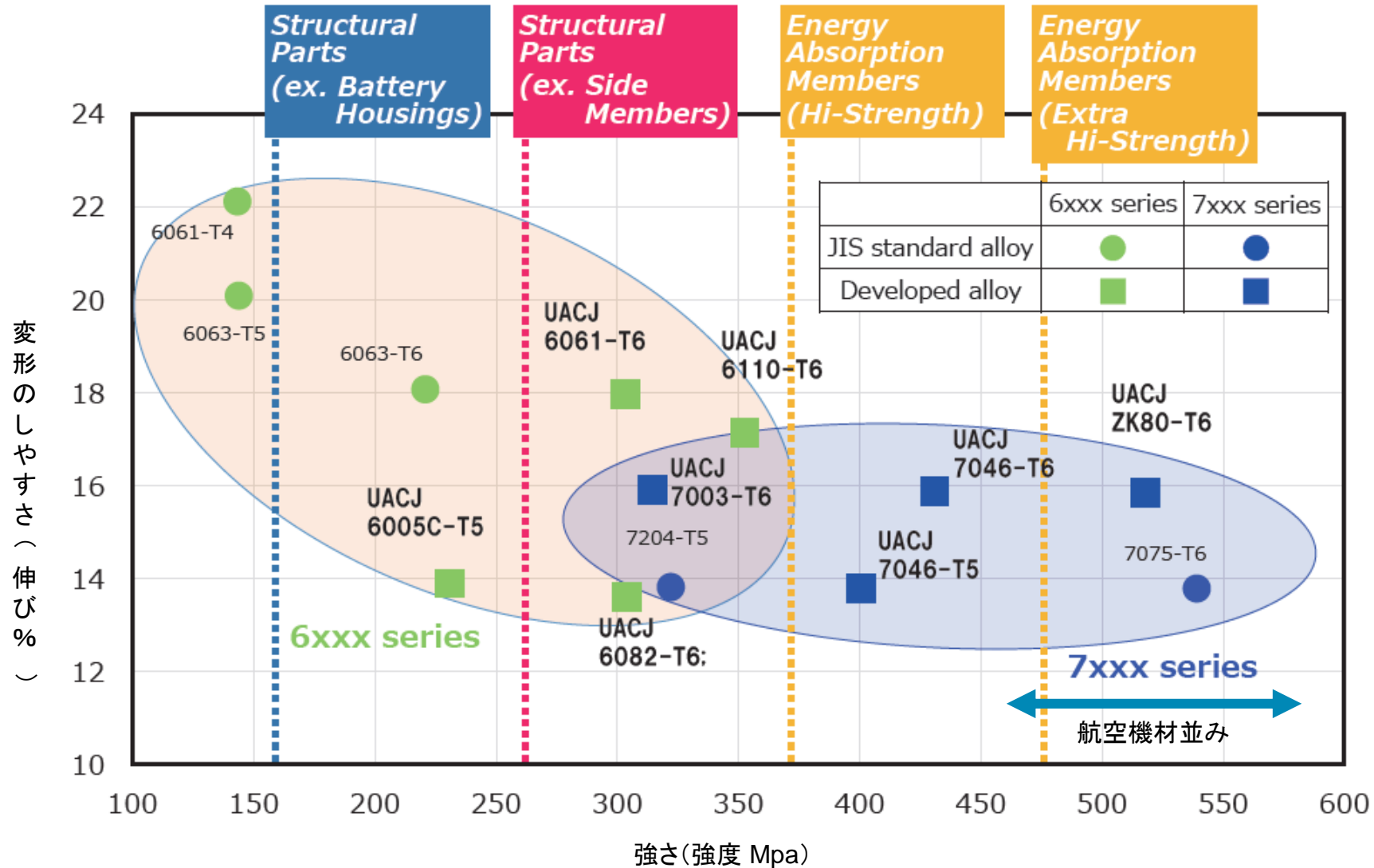
MTCの開発取組み

部品先行開発フェーズから積極的に参加し、開発・試作をサポートする体制を構築

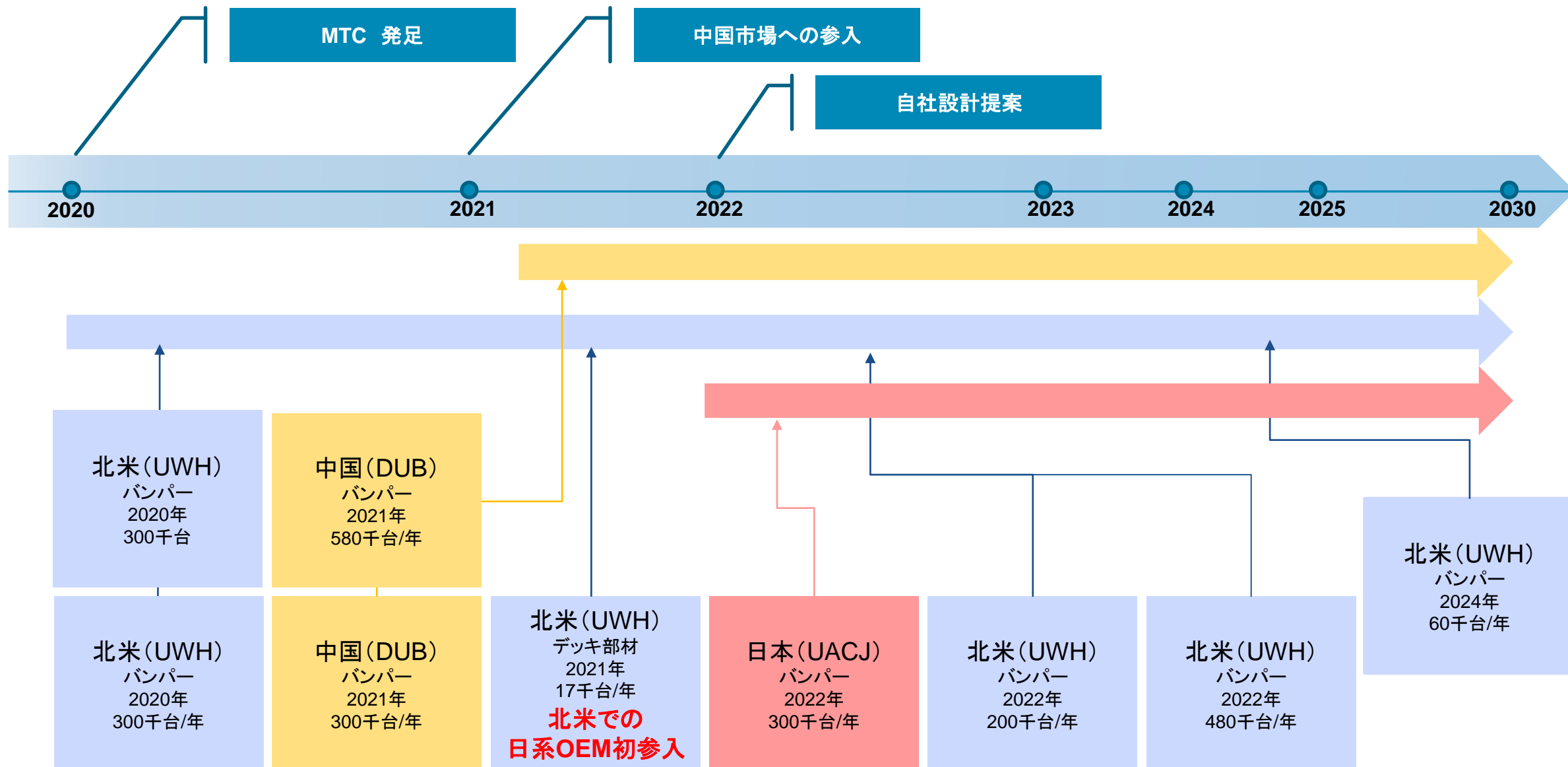


培った「技」と「術」を最大限に活用した製品開発

お客様の多様なニーズに応える幅広い製品ラインナップを揃える



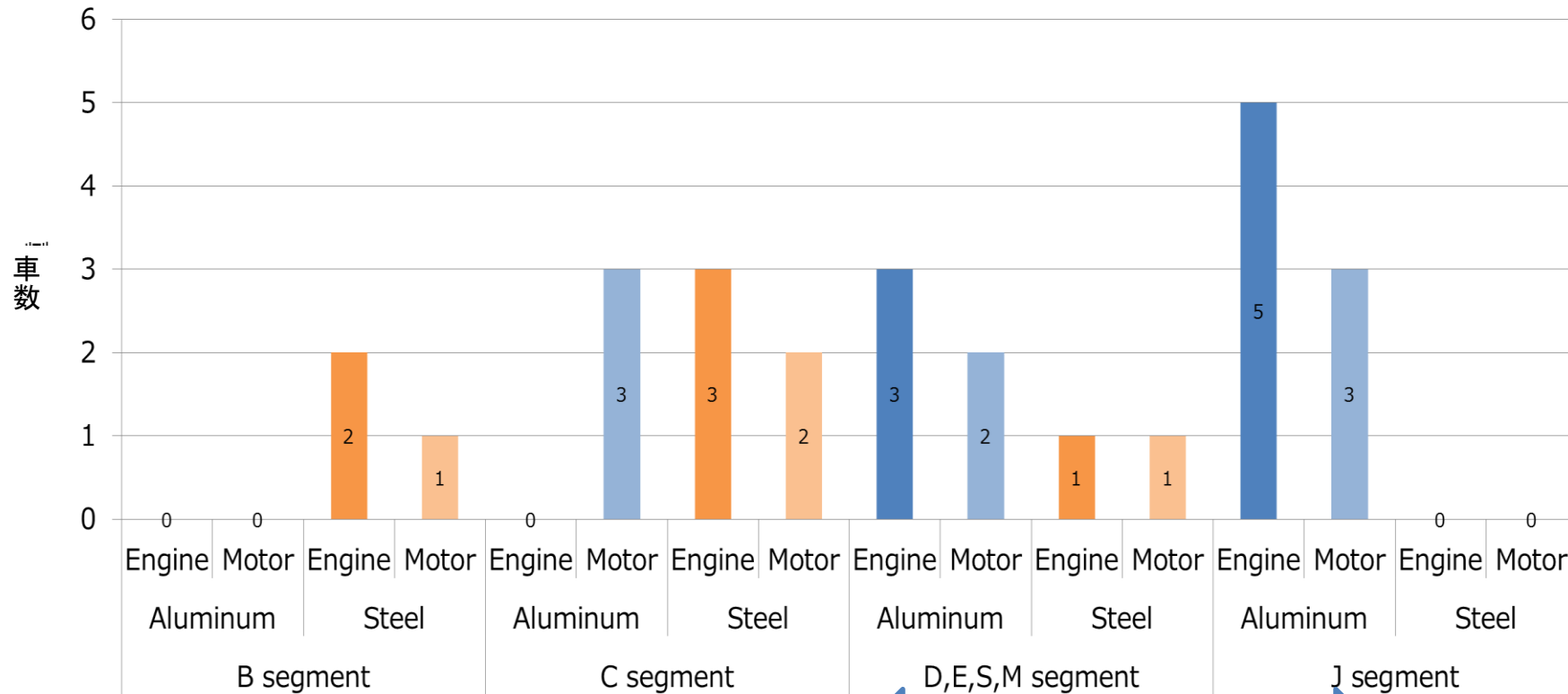
お客様と共同開発してきた製品



バンパービームの材質の採用動向

Dセグメント以上はアルミニウムの採用事例が多く、Cセグメント以下ではエンジン搭載車への採用事例はない
今後、電動化の進展とともにアルミニウムの採用事例が拡大するよう開発を進めていく

2019～2021年に Euro Car Body へ出展した車のバンパービームの材質



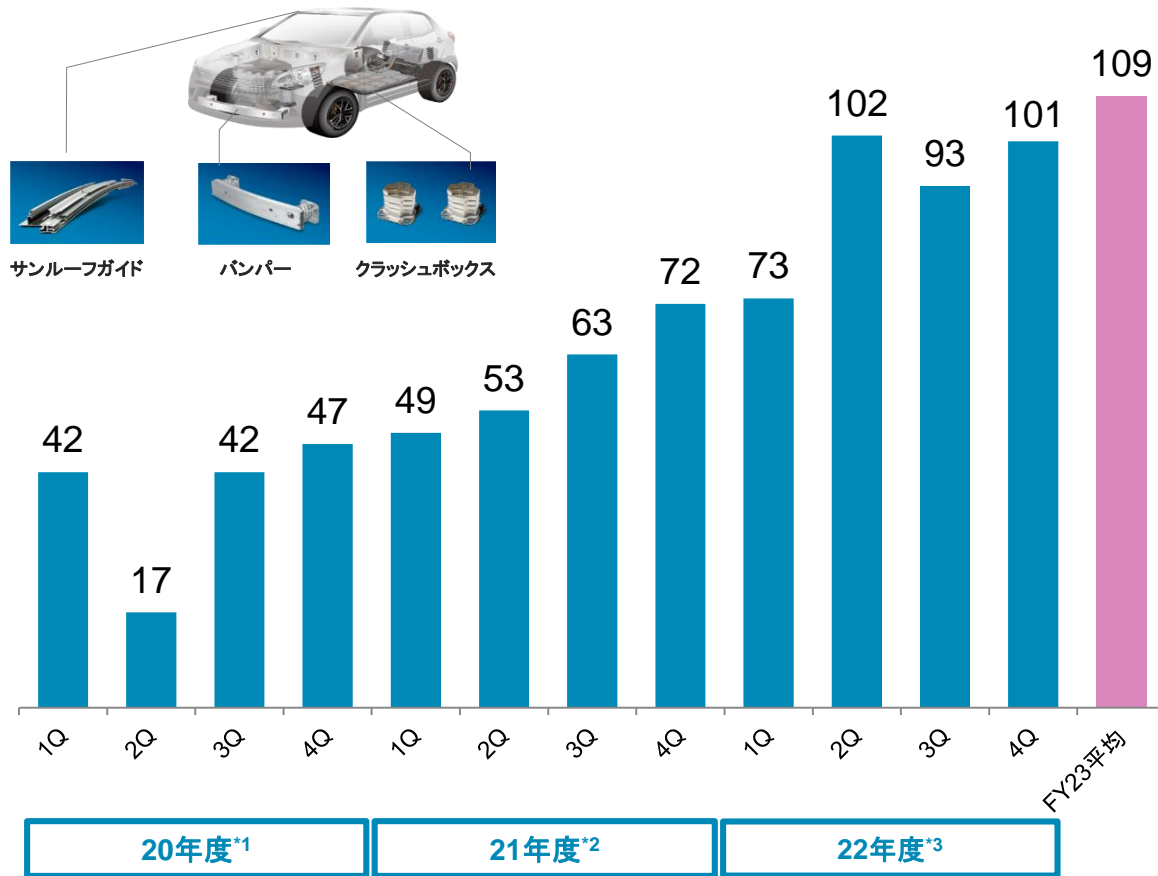
エンジン搭載車でアルミニウム採用

今後、アルミニウムの採用が拡大するよう働きかける

自動車部品事業 UWHの状況

2022年度は顧客の販売計画を元に新ライン導入も、自動車生産混乱影響で実需に期ズレが生じた

UWH 売上高推移(単位:億円)



2022年度総括

- 市場環境** :
- ・足元は半導体不足等で自動車生産に混乱が生じている。
 - ・中長期では米国政府のバイ・アメリカン法により、米国製のEV需要は増加が見込まれる
- 販売** :
- ・自動車生産混乱を受け実需の期ズレが生じ、顧客に対して販売変動分の保証を交渉中
 - ・売上高増加は、アルミ地金価格の高騰影響
- 生産体制** :
- ・新ライン稼働開始も、販売影響で低稼働
 - ・需要回復に備え、自動化・コスト削減など実施

損益 (単位:億円)

	21年度	22年度	23年度(計画)
売上高	237	369	435
営業利益	△ 15	△ 28	22
棚卸資産影響前 経常利益	△ 18	△ 44	6
経常利益	△ 18	△ 42	7

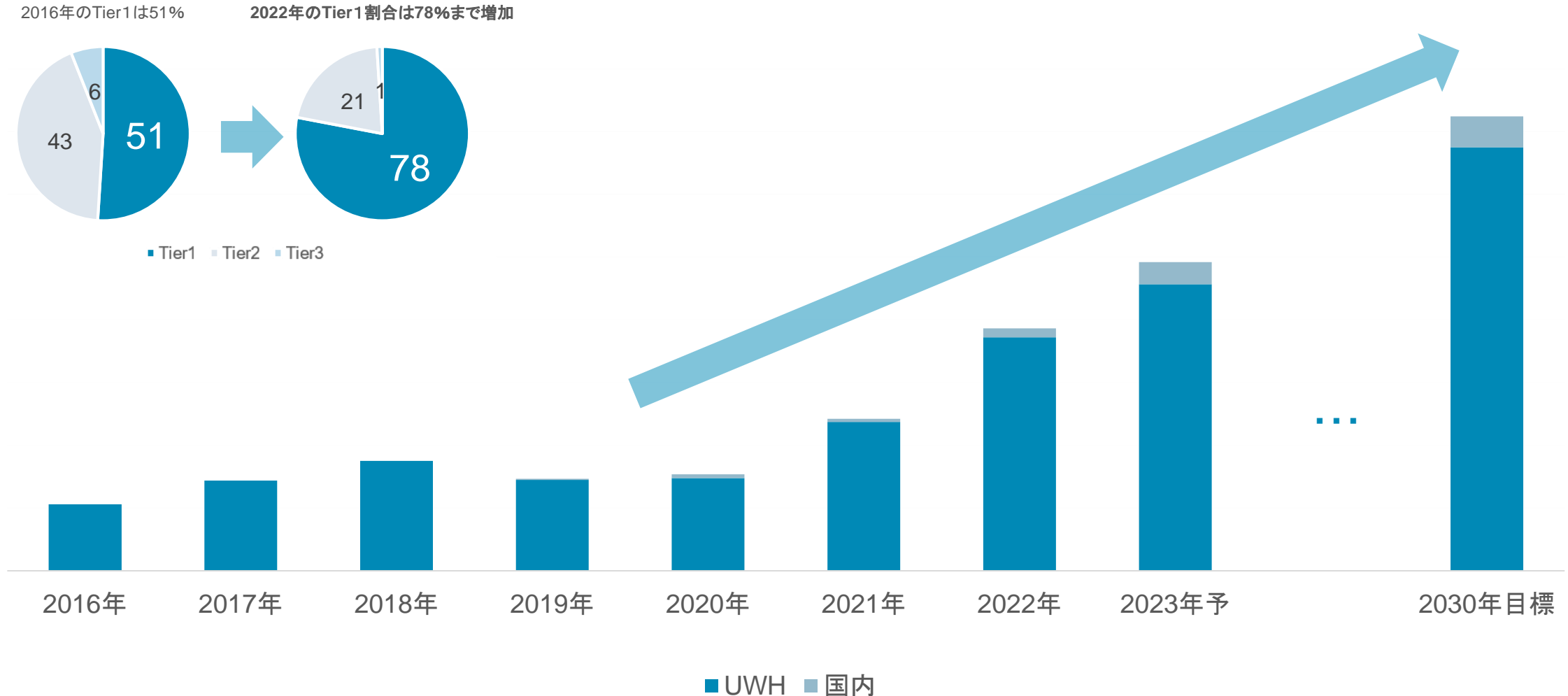
*1 20年度…2020年1月～12月

*2 21年度…2021年4月～2022年3月

*3 22年度…2022年4月～2023年3月

自動車部品事業本部 売上高推移

半導体不足等による自動車生産混乱の影響から脱し、UWHの早期の収益化に注力する





Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界